

K I S H U I C H I K A W A N I I G A T A K A T S U T A O S A K A N A G A O K A

KINKON

2021冬
vol.16

ZERO
CO₂
2050™



北越コーポレーション

KINKONは、当社工場の地名の頭文字を組み合わせ、お客様を訪問する際のチャイム音「キンコン」をイメージした、当社の環境活動通信誌です。

森を育て、森を守り、地球環境に貢献します

641万ha

Forest Management of Hokuetsu Group

COP26が開催され気候変動や環境について注目度が高まっています。環境に深く関わりのある森林管理について当社の取り組みを紹介しします。北越コーポレーションが使用する製紙用の木材チップの99%が海外の植林木です。これらは、成長の早いユーカリやアカシアで、計画的に植林、育成、伐採、そしてまた植林されるというサイクルが定着した合法かつ持続可能な植林木から生産されています。

一方、国内では12,200haの社有林を保有・管理し国内企業では、TOP10に入る規模です。計画的な手入れを行い、健全な森づくりに努めています。当社は植林木を使用し、森を育て守ることで地球環境や地域社会に貢献しています。

南アフリカ

社有林 概算総面積

約 **2,800ha**



大事に育てた苗木

北越グループは2008年より現地法人(現地森林組合とのJoint Venture)を設立、事業を開始しました。南アフリカのクワズール・ナタール州に4カ所、計2,800haの土地を保有し、植林を行っています。植林～伐採のサイクルは10年、産出される丸太は製材、製紙用木材チップ、アカシアの樹皮はタンニン原料と余すことなく利用されています。その収益で再植林費用、管理費等を賄う持続可能な植林事業です。

現地法人では地域の環境・土壌に適した適地適木の植栽管理を行っています。これらの植林地も、すべてFSC®-FM認証を取得しています。

南アフリカ共和国
2,800ha
ユーカリ・アカシア



植栽後1年半ほど経った様子

全植林地で生態系を脅かす外来樹種の排除と在来樹種維持の管理を行い、野生動物にとって良好な生態域を維持するよう努めています。



植林地のシマウマ



植林地で撮影された希少種カラカル

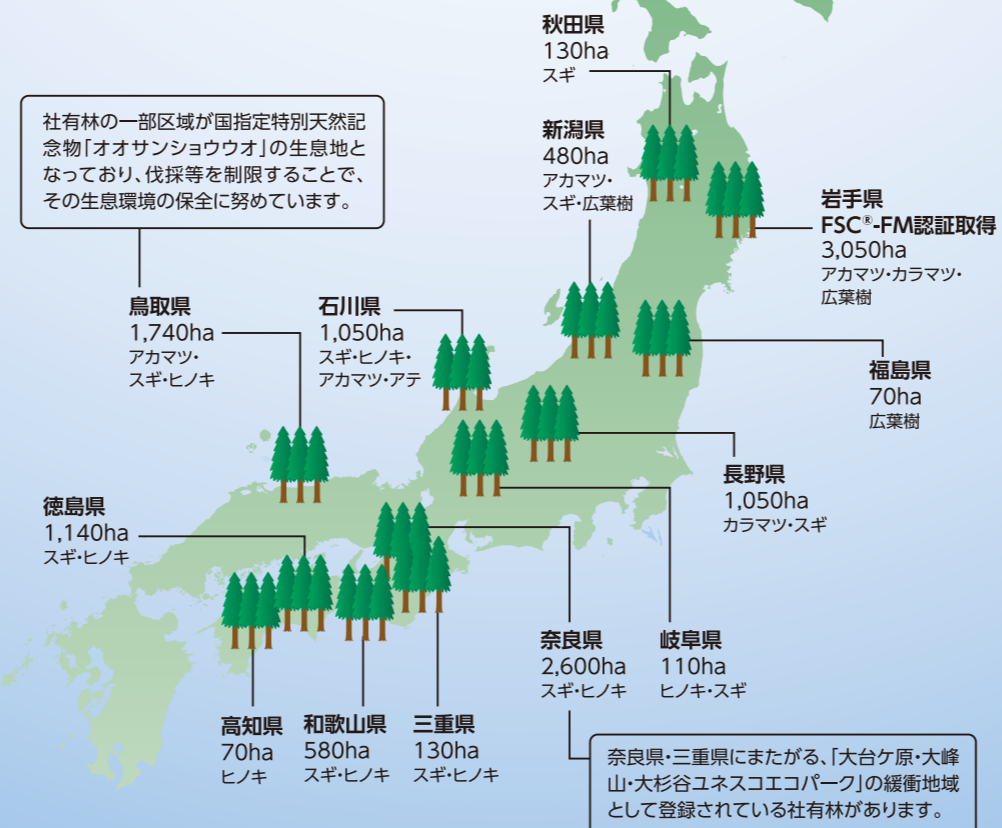
日本

社有林・分収林 概算総面積

約 **12,200ha**

日本全国にわたり、社有林・分収林を保有・管理しています。多くの社有林では、森林法に基づく森林経営計画を作成し、所轄市町村等から認定を受けた計画に則った間伐、収穫伐採及び、その後の再植林による森林再生を適正に行い、森林の保護・育成を継続的に実施しています。

社有林の一部区域が国指定特別天然記念物「オオサンショウウオ」の生息地となっており、伐採等を制限することで、その生息環境の保全に努めています。



カナダ

管理契約森林 概算総面積

約 **6,400,000ha**

日本の関東甲信越を合わせた面積より広い
広大な森林資源。
※関東甲信越 合計面積 約 6,300,000ha

アルパック社

Al-Pac (Alberta Pacific Forest Industries Inc.)

当社グループのアルパック社(年産63万トン、北米最大級のパルプ工場)は自社の伐採活動が森林の生態系に影響を与えないミニマムフットプリントの実現を森林経営のコア・バリューとしています。森林計画を立案し、自然条件に近い森林更新の実現を目指しています。



Al-Pac 工場

この地域は亜寒帯森林で様々な動植物が生息し、また先住民24部族が暮らしています。アルパック社は様々な環境保護団体、先住民と密接に連携し、森林の生態系保護に取り組んでいます。2005年以来、FSC®-FM認証を継続して取得しています。管理する州有林は一体で経営されるFSC®認証森林面積として世界最大です。



野生のカリブー

提供: Alberta Biodiversity Monitoring Institute's Caribou Monitoring Unit



森林計画に基づく伐採後の様子

UX新潟テレビ21「まるどりっ!UP」10/23放映

2021年10月23日(土)にUX新潟テレビ21「まるどりっ!UP」にて当社新潟工場のCO₂排出実質ゼロへの取り組みが放送されました。木材チップからパルプと黒液(バイオマスエネルギー)が取り出せること、CO₂削減対策を進める新潟工場のバイオマスエネルギー比率が74%(全社では70%)であることなどを分かりやすく紹介していただきました。

番組内では当社全体のCO₂削減についての取り組みを掲載した「Road to 2050」パンフレットも紹介していただき、2050年のCO₂排出実質ゼロに向けた挑戦についても視聴者の方に知っていただけるよい機会となりました。



まるどりっ!UP

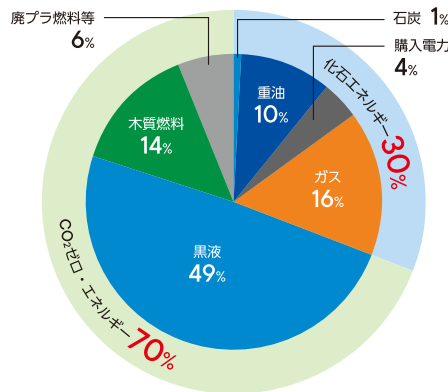


ZERO CO₂ 2050へ向けて

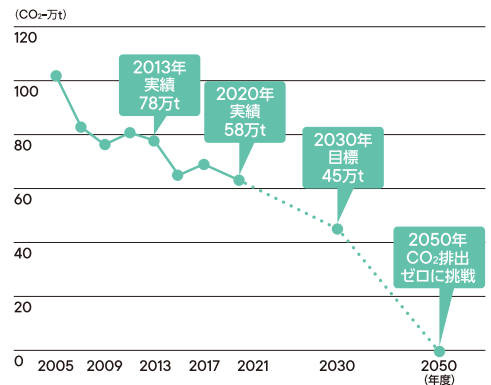
北越コーポレーションは、積極的にCO₂排出量の削減対策を進め、現在では当社で使用するエネルギーのうちCO₂排出量実質ゼロエネルギーを70%まで高めることができました。2050年のCO₂排出実質ゼロに向けて設備投資等の対策を行いCO₂削減への取り組みを加速させてまいります。

当社は自社の製造段階だけでなく、原材料調達・製造・物流・販売・廃棄など、一連の流れ全体から発生する間接的な温室効果ガス排出量(Scope3排出量)についても算定をしています。原料調達から製品の使用・廃棄に至るまでライフサイクル全体で温室効果ガス排出量の管理と削減をすることが重要だと考えています。

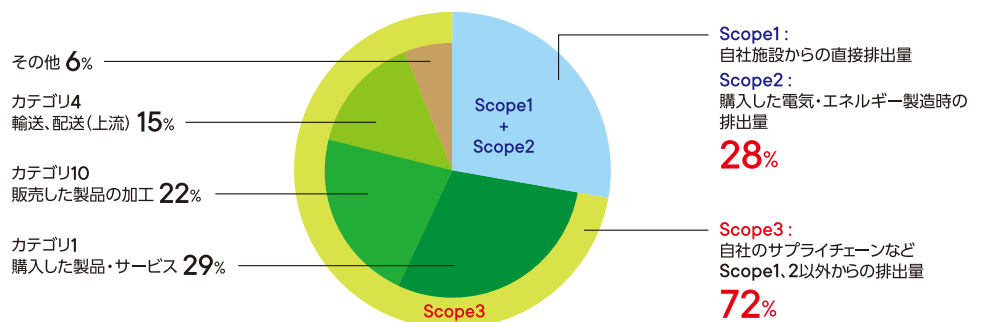
当社のエネルギー構成比 (2020年度実績)



当社のCO₂排出量の推移



当社グループのサプライチェーン温室効果ガス排出量の算定結果 (2020年度実績)



編集後記

COP26が開催され環境に関心が高まる中、最近のニュースでは、気候変動、カーボンニュートラルと並んで植林というキーワードをよく耳にするようになりました。紙と植林は密接な関係があり植林は紙の原料を調達する手段であることは皆さんご存じのとおりですが、現在では温室効果ガスのCO₂削減の一つの手段として植林が大変注目を浴びています。

当社は、環境、人権、生物多様性等に配慮し持続可能な森林管理を行っています。当社の取り組みについて分かりやすくお伝えできればと思っています。

この通信誌の用紙にはムーマツト-F 157g/m²を使用しております。

KINKON vol.16

2021年12月発行

[発行]

北越コーポレーション株式会社

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-2

TEL(代):03-3245-4500 FAX:03-3245-4511

http://www.hokuetsucorp.com/

ZERO
CO₂
2050™

